

国際日本学研究科  
修士学位請求論文 要旨

論文題名

週刊少年マンガ誌における男性主人公の身体的特徴の変化  
— 『週刊少年ジャンプ』 『週刊少年マガジン』  
『週刊少年サンデー』 を事例として—

国際日本学研究科  
国際日本学専攻 博士前期課程  
ポップカルチャー研究領域

入学年度	2023 年度
学生番号	4911231001
氏名	丁宇婷
指導教員	宮本大人
提出日	2025 年 1 月 9 日

本論では、週刊少年マンガ誌における男性主人公の身体的イメージが歴史的にどのように変化してきたのかを明らかにすることを目的とする。

日本のマンガにおける男性の身体的イメージについては、ジェンダーの視点からの研究が行われてきているが、少年マンガについては、エンブンの研究しか存在しない。エンブンは『週刊少年ジャンプ』のバトルマンガを対象に、少年マンガの男性主人公は美しく細身になっているという結論を出しているが、調査対象が限定されているという問題点がある。日本の少年マンガには『週刊少年ジャンプ』以外にも『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』『週刊少年チャンピオン』『週刊少年キング』などの雑誌が存在するため、売上や人気の高い1誌の結果だけで全体の少年マンガを代表することには議論の余地があると言える。

エンブンの研究は、明確な問題意識と研究方法に基づいた重要なものであるが、上記のような問題があることから、本論ではエンブンの問題意識を共有しつつ、彼の研究方法を参照しながらも、独自の調査項目を立て、『週刊少年ジャンプ』のバトルマンガに限らず、『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』、『週刊少年サンデー』の全ての掲載作品にまで調査対象を広げている。

本論は、エンブンの研究では不足している点についての基礎的なデータを補充し、考察を行うことに、一定の研究意義があると考えている。

この研究では『週刊少年ジャンプ』『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』3誌の毎年の新年号を対象に、創刊から2024年までの主人公の身体的特徴を分析し、その変化の要因を考察する。

週刊少年マンガ誌における男性主人公の身体的特徴として、調査対象号の掲載作品（読み切りも連載も含む）の男性主人公について、名前、性別、職業、顔の形、目の形、白目の有無、ハイライトの有無、瞳孔表現の有無、虹彩表現、眉毛の太さ、頭身、筋肉の量の12項目を対象に分析する。

また、調査対象の作品をバトル、スポーツ、恋愛、ギャグ、その他の5つのジャンルに分類した。

予備調査の段階で、男性主人公の身体的特徴はエンブンの研究結果と共通点が多いことが分かった。これを踏まえて以下のような仮説を立てた。

- 主人公の目の形が丸い目からつり目へと変化する。
- 筋肉質な男性主人公が1970年代から1990年代に多く見られるが、2000年代以降は萌え絵系の男性主人公が増加する。
- 雑誌ごとに変化の時期にズレがあり、ジャンルごとの特徴も異なる。

本論では、こうした点について、詳細に検証した。

まず、年代ごとの変化について、3誌の全体的なデータを比較した結果、一般的に見て、3誌とも、創刊初期の主人公は全黒塗りの虹彩、丸い目、太い眉、低筋肉が特徴的であった。1970年代から1980年代にかけて、劇画スタイルの登場により、筋肉質で八頭身に近い主人公が増加した。1980年代以降、特に『週刊少年ジャンプ』では、バトルマンガの人気に伴い、筋肉質で力強い男性主人公が多く登場した。しかし、1990年代以降、こうした筋肉質な主人公は減り、2000年代以降はほとんど見られなくなった。その結果、3誌とも、目は丸い目からつり目へ、眉毛は太眉から細眉へ、目の虹彩は複雑化する傾向があり、また筋肉の量についても、高筋肉と低筋肉の間で変化が見られた。

次に、3誌のマンガをジャンルごとに見て、その時期的な変化を検討した。まず分かることは、3誌それぞれに特徴的な連載作品のジャンルがあり、主人公の設定にも違いがあるということだ。創刊当初の『サンデー』はギャグマンガが多く、顔の形がさまざま、特殊な形の目をした主人公や、4頭身以下のデフォルメされた主人公が多い傾向にあった。

『ジャンプ』は特に90年代以降、ファンタジーマンガが多く、さらに『マガジン』は不良少年の日常を描いたストーリーが特徴的だった。特に、『週刊少年ジャンプ』の目と筋肉の変化は、他の2誌に比べて明らかに顕著である。1980年代の『週刊少年ジャンプ』のバトルマンガでは、高筋肉の男性主人公が他の2誌に比べて多く、よりハードコアなスタイルで描かれていた。バトルマンガとギャグマンガが融合した作品の多い『ジャンプ』には、筋肉質な主人公が多く登場するが、他の2誌では筋肉質な主人公は『ジャンプ』に比べると少ない。3誌とも主人公の変化が現れる時期には前後があるものの、2000

年代以降、卵形の顔や細い眉、グラデーション、つり目、低筋肉、そして4～6頭身のキャラクターが主流となっている。

これらの変化を踏まえて、最後に三誌の共通点と相違点を分析し、各時代の編集方針や流行現象を考慮した上で、特に『週刊少年ジャンプ』が他の2誌よりも早く目の変化を起こす傾向があったのは、編集方針の違いによるものではないかと考察した。また、他の2誌の年代ごとのジャンルの流行も、『週刊少年ジャンプ』に影響を受けていると考えられる。

本論で得られた知見をまとめると以下のようになる。

『週刊少年ジャンプ』『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』の3誌は創刊時期が異なるものの、少年読者をターゲットにしているため、男性主人公の特徴には共通点が多い。1970年代以前、主人公は学生服を着た学生が多く、丸い目や全黒塗りの虹彩、太い眉毛が特徴だった。また、男性主人公は低身長で筋肉が少ない傾向があった。1970年代の『週刊少年ジャンプ』では、劇画スタイルの台頭により、筋肉質で8頭身に近い男性主人公が増加。1980年代には異能バトル漫画が登場し、筋肉質な主人公が増えた。1990年代には3誌とも目が細くなる傾向が強まり、特に『週刊少年ジャンプ』では丸い目よりもつり目の男性主人公が増え、筋肉質な男性主人公は減少した。2000年代以降、中筋肉以上の男性主人公はほぼ姿を消し、萌え系の男性主人公が増え、男性主人公イメージはより細かく、美しくなった。研究では、『週刊少年ジャンプ』以外の2誌も含めて、男性主人公の身体特徴が美しくなる傾向が明確に見られることを確認した。

各雑誌はそれぞれ異なる編集方針に基づき、読者層に合わせた変化を遂げている。『週刊少年サンデー』はギャグマンガや青春ものが多く、特に恋愛要素を扱った作品が目立つようになった。『週刊少年マガジン』では、不良男性主人公ものが多く、1980年代にはラブコメブームが起きた。一方、『週刊少年ジャンプ』は「友情」「努力」「勝利」をテーマにしたバトルマンガを主軸にし、異能バトルマンガが登場し、読者層を拡大した。このように、各雑誌の特徴と進化はそれぞれ異なり、時代の変化を反映した独自の方向性を持ちながらも、共通の傾向も見られる。